



来日時に紅葉を楽しむ、トセパンのアドバイザーを務めるレオナルドさん

昨年9月にトセパン協同組合(以下、トセパン)のアドバイザー、アルバロさんが逝去されたこと
はお伝えしましたが、その2カ月前には、トセパン
設立当初から中心的に組合を引っ張ってきた
組合員ドン・エビファアーニョさんが亡くなりました。
組合にとっても大切な心よりどころ
でもあった人たちを立て続けに失ったトセパン。
コロナ禍もあり、現地ではどういった状況にある
のか、アルバロさん亡き後、アドバイザーとして
組合を支えているレオナルドさんにお話を聞き
ました。

(聞き手・ウインドファームスタッフ岩見知代子)

Q アルバロさんやドン・エビファアーニョさんが亡く
なり、どのように乗り越えてきたのでしょうか？

A 2020年、アルバロさんとドン・エビファアー
ニョさんを始め、他にも私たちにとってとても大
切な人たちが立て続けになくなり、その状況に乗
り越えることはとても難しいことです。組合に
とって、連帯というのは、これ乗り越える上で大
切なことですが、その過程は容易ではありません。
時間がかかります。確かに私たちは前に向
かって進んでいます。組合の皆が悲しみや心の
痛みをまだ抱えています。喪の悲しみは、簡単に
そして早く終わるものではないのです。

トセパンは、いま大きな試練の時にあります。そ

の試練は2つあります。1つは、すでに厳しい試練
の時代の真ただ中において、組合にとっても
大切に、私たちの心の大きな支えとなっていたア
ルバロさんたちを失ってしまったということです。
そして、2つめは、新型コロナウイルス感染症のパ
ンデミックです。だからこそ、今の状況を乗り越え
ていくことは、簡単なことではないのです。けれ
ど、私たちは前に進んでいこうとしています。

Q 新型コロナウイルス感染症の拡大により、ト
セパンも大きな影響を受けていると思います。今
はどういった状況にあるのでしょうか？

A 日本へはウインドファームを通してコーヒーは
お届けできていますし、ヨーロッパへのオースパ
イスの輸出もストップしたわけではありません。
ただ、コロナ禍でさまざまな手続きに時間を要し
ているため、例年よりも輸出がスムーズに出来て
いないという現状はあります。世界のさまざまな
地域でも見られるように、経済的には厳しい状況
です。

感染状況については、実は、私も昨年秋
に新型コロナウイルスに感染しました。しかし、こ
の地域で感染者が急増しているということはな
く、今は比較的落ち着いた状況にあると思いま
す。コーヒー栽培などの生産活動にも、変わらず

取り組んでいます。

またトセパンは、「トルチカワ
リス」という新たなプロジェクトを
立ち上げました。これは新型コロナウイルス
ウィルスのパンデミック下において、
地域の人たちの健康面における不
測の事態に対応していこうとする長
期的なプロジェクトです。

具体的には、情報を提供する、予
防の強化に努める(特に新型コロナウイルス
ウィルス感染症に感染しやすいと言
われる高齢者への健康診断など)、
感染の可能性にあるコミュニティへ
の連帯アクションといったことに取
り組んでいます。

また、自宅で過ごす時間を私たち
の知識や伝統を見直す機会と捉え、
コミュニティを守っていくために、自家
菜園や薬用植物の栽培も勧めていま
す。

私たちは、問題から怖がって逃げる
のではなく、今こそ「連帯」することが
必要だと考えています。私たちが一緒
に連帯して取り組むことで、その結果
もまた変わってくると思います。トセパ
ンにはその経験があるので、この取り

組みに参加してくれるよう地域一帯に呼
び掛けています。

Q コロナ禍にあります。センプランド・
ヴィダへの取り組みは続いていますか？

A 引き続き、政府と協力し、センプラ
ンド・ヴィダプロジェクトに取り組む農業
技術者やプロモーターのためのワーク
ショップは行っています。センプランド・
ヴィダを担当しているビエンエスタール省
の大臣であったマリア・ルイスさんは、現
在、環境大臣になっていますが、センプラ
ンド・ヴィダの方針は変わらず続していま
す。

Q 日本の皆さんへのメッセージをお願い
します。

A いつも私たちと共にいてくださ
る日本の皆さんには、とても感謝してい
ます。新型コロナウイルスの世界的な感
染拡大により、皆さんと直接お会いする
ことは難しい状況です。以前のように日
本を訪問することもできません。けれど、
物理的な距離が離れていても、直接お会
いして話すことはできなくても、私たちは
皆さんのことをとても近く感じています。

私たちは、今とても難しい、困難な時代
に生きています。しかし、どんなに厳しい
状況であっても、私たちは常に威厳を
もって、皆と協力し、思いやりを忘れずに

過ごしてきました。この状況で学んだこ
とは、楽な状況であろうと厳しい状況で
あろうと、問題なのは私たちがどのよう
に生きるかということです。

私個人としては、皆さんが寄り添い続け
てくれていること、いつも近くにいてくれ
ること、皆さんの温かい思いを感じられ
ることに、感謝しかありません。特に、
コーヒーを通じて知り合うことができた
ことは、私にとって素晴らしいことでし
た。今ではハチミツも加わり、皆さんのお
かげでこの地域の生産物が日本に届けら
れています。遠くにおいても、お互いを思う
大きな心があるからこそ、こうしたフェア
トレードが成し遂げられたのだと思っ
ています。本当にありがとうございます。

▼ 菜園で作ったトウモロコシを食べる子どもたち。おいしく食べることも大切な授業になる。



▲ 小学校の授業の一環として取り組まれている菜園づくり。



先生と子どもたちが収穫したトウモロコシの皮を剥いて茹でる様子。育てた野菜の調理の仕方も、子どもたちは学んでいく。